

# “わたしの防災力”を“みんなの防災力”へ

『たからづか発 わたしの防災力UPガイド』に寄せて

常光 明子さん（男女共同参画センター横浜北 事業課長）

阪神・淡路大震災—その朝のニュース映像は、あまりにも大きな衝撃でした。まだ携帯電話やインターネットが一般的ではなかったなか、ようやく宝塚市女性センター(当時)の知人から届いた「無事です。でもセンターのなかはガラスの破片や物が散乱して・・・」という一報は、今も忘れられません。

横浜で2006年から始めた「女性の視点で考える防災のまちづくり」は、震災時に女性が経験したリスク、不安や困難を知り、地域と暮らしの安全網を自分たちで築こうと

いう事業です。2009年には、安全網を身近に広げるツールとして『わたしの防災力ノート』を制作しました。このノートを通して多くの人と学び合い、「もしも」への備え“防災力”は、日々の暮らし方、働き方、人とのつながり方のなかから育むのだと実感しています。

「揺れてる！どないしょっ！！」誰にとっても、安心・安全はかけがえのない宝です。ひとりひとりが担い手となり、大切な誰かとつながりながら、温かい安全網を広げていきましょう。

- 生き残る。何がなんでも生き残ろう。
- あきらめない。でも、頑張りすぎない。
- 「もしも」のときに頼りになるのは「いつも」  
今、この時から人の縁を大切にしていこう。  
わたしの防災力ノート“防災はあきらめない力”より

たからづか発 わたしの防災力UPガイド制作委員会メンバーのつぶやき ★防災の常識だと思っていたことが今は常識でなくなっていた！防災も時代と共に変わる。(彰)  
★普段何気なく歩いている街をちょっと意識してみよう。(邦) ★素晴らしい！！災害を最小限に食い止める力は、女性の力、男性の力、人の力、みんなのつながる力なんだ。(千) ★いつかだれかが。防災落ちこぼれな私。リアリティと希望、今を楽しむことが防災に！(大) ★多様な人がかかわる、「いま、ここの活動」が、どんな想定外の危機にも力を発揮する。(和) ★みんなの力で防災・宝塚のまちをつくる。キーワードはつながる。そしてつなげる。(中) ★防災とは、自分の命は自分で守り、大切な人を守ること！震災の経験と教訓も忘れない(克) ★手を上げないと繋がれない。つないだ手を信頼することは自分の力。(樹) ★災害はきっと起こらない、はもう卒業。災害がきても大丈夫！そう言えるようになろう☺(真) ★日常が災害時に生きる。持てる力を発揮して、自分らしくあったかく生きていこう。(径) ★「情報格差が生死を分ける」東北の震災報道でも目の当たりにしたが、情報力は重要なライフスキルと実感。(い) ★自然の力をあなどるなかれ。されど自然はすばらしい。(宇)

企画・編集・発行

たからづか発 わたしの防災力UPガイド制作委員会  
(宝塚どないしょネット・宝塚市人権男女共同参画課)  
問合せ先

宝塚市 総務部人権平和室人権男女共同参画課  
〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号  
電話 (0797) 71-1141 (大代表)  
発行年月日 2013年1月17日  
イラスト 小澤 由希子

## ◎記憶の中の「生」再現プロジェクト

このオブジェは、市内在住の現代美術家大野良平さんが、阪神・淡路大震災から10年目の2005年1月に、「街と人の心の再生」を願って武庫川の中洲に石を積んで制作したものを、2005年12月に再現したものです。写真の2代目「生」のオブジェの再現は、延べ100人を超えるボランティアの協力を得て完成させることができました。2012年12月現在、現地には4代目となる「生」が存在しています。



## 「宝塚どないしょネット」

2012年2月に開催された、人権男女共同参画課主催の「市民プロデューサー養成セミナー 目指せ！わたしたち発地域防災プロジェクト」の講座修了生グループ。

宝塚にまた大災害が起こったらどないしょ！市民の防災力アップのために「YOKOHAMA 防災力ノート」の宝塚版が欲しいとの熱い思いで活動を始めました。

防災をあなたまかせにしない、市民一人ひとりが当事者意識を持つためのガイドブックを作ろうと、既に地域活動などで忙しいメンバーたちが、人権男女共同参画課の担当者のサポートも受けながら、さらに忙しく編集作業に奮闘しました。今後は、このガイドブックを地域で活用してもらうためのワークショップを展開できるグループをめざしたいと考えています。